

中世における 技術と職業の発達を学ぼう

神奈川県公立中学校教諭

1 はじめに

今日、授業を取り巻く環境のなかで「言語活動の充実」が大きく取り上げられ、言語活動をどのように授業に組み込み、どう評価していくかという点でさまざまな試みが行われている。

そうした状況にあって、文部科学省は平成23年5月に『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』を刊行した。そのなかで、思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動として、「①体験から感じ取ったことを表現する。②事実を正確に理解し伝達する。③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。④情報を分析・評価し、論述する。⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」活動が重要であるとまとめている。

さらに、社会については「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得するとともに、社会的な見方や考え方を養うことができるように、様々な資料を適切に収集・選択・活用して、社会的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する学習活動を充実する。」とし、歴史的分野は「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動や、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習などを通じて、歴史的事象について考察・判断しその成果を自分の言葉で表現するなどの学習活動を充実する。」としている。

本稿では文部科学省が掲げる言語活動の充実に依拠しながら、『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）「第3部3章自力救済が広まる社会」を

題材に、単元構想と授業展開を提案したい。

2 単元構成

(1) 言語活動のとらえ方

本稿では、「基礎・基本的な知識・概念を習得した上で、既習知識を総合的に活用し自分なりに時代を大観し表現する」ことととらえる。

(2) 指導目標

鎌倉幕府滅亡から室町幕府成立までの混乱期や応仁の乱などを経ながら、諸産業の発達や自治組織の成立・流通の発展などで実力をつけてきた民衆の成長と、そうした民衆と深く関係している武家政治について理解させ、自分の言葉で適切に表現させる。

(3) 単元を貫く課題（テーマ）

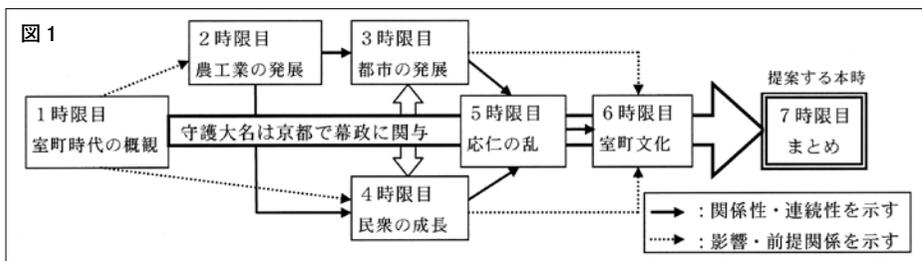
「民衆は武家政治のなかで

どのように生きたのか」

を大テーマに室町時代を考えていく。

(4) 単元計画

時	テーマ	学習内容	評価の観点
1	室町時代の概観	・鎌倉・江戸幕府との違いをおさえる 守護大名は京都で幕政に関与していた	関心
2	農工業の発展	・農業の発達 ・職業の登場 農業の発展が職業の種類を増加させた	技能
3	都市の発展	・流通の拡大 ・都市の自治 都市を中心に経済活動が活発化した	思考
4	民衆の成長	・惣（惣村）の誕生 ・一揆の発生 農工業や都市の発展で民衆が自立した	知識



5	応仁の乱	・下克上の風潮 ・戦国大名の登場 応仁の乱は時代のように大きく変えた	思考
6	室町文化	・生活様式の変化 ・文化の担い手 京都の文化が日本中へ広がった	知識
7	単元のまとめ (本時)	・既習知識の総括 ・時代の表現	関心 思考 技能

単元計画を構造化したのが、上の図1である。室町幕府の特徴といえる、幕府が京都に置かれ守護大名の多くは在京であった点を基底に、都市や民衆の成長が時代の進展に大きく影響していることをとらえさせたい。

(5) 教材観

室町時代の民衆を考えるうえで参考になるのが、「職人歌合」である。「三十二番職人歌合」「七十一番職人歌合」等があるが、今回は岩波書店刊行の『新日本古典文学大系』の「七十一番職人歌合」中に掲載されている職人絵を用いる。「七十一番職人歌合」は142にのぼる職種が描かれた中世後期最大の職人歌合である。資料1のように余白部分に「画中詞」も書かれており、中世の職種を知るうえで重要な資料である（「三十二番職人歌合」を用いてもよいし、『アドバンス中学歴史資料』p.58に掲載されている④工業（手工業）の発達や

⑤商業の発達を用いてもよい）。142の職種には女性も多く描かれており、女子生徒にも親しみやすい。また、

生徒に、自分のやってみたい職種を選択してもらう際にも各クラス1名につき2種類は職種を選ぶことができ、中世の民衆のようすを多角的に考えることができる。

3 授業展開

(1) 本時までの流れ

1 時限目の室町時代の概観において

- ①単元を貫くテーマを明確にする。
- ②最後の時間にテーマに則した絵日記を2日分かいてもらうことを伝える。

の2点をはっきりさせうえて、各授業では

- ①「民衆の成長」という視点を意識しながら授業を展開する。
- ②各授業のまとめは、単元を貫くテーマに則して民衆を主体とする。
- ③授業でどんな民衆のようすがわかったかをまとめさせる。※絵日記の基本構想になる

ことをふまえながら7 時限目の本時につなげる。事前に資料を揃えたり調べたりさせておいてもよい。

(2) 本時の展開

- ① 授業の最後にまとめたノートもしくはプリントを用意させる。

毎時間のまとめが絵日記の基本構想となり、何を書くのかという点の方向性となる。また、毎回のまとめが充実していれば表現する幅も広がり、絵日記を通して行う言語活動も充実していく。この際、上記の通り事前に用意した資料を準備させてもよい。

- ② 絵日記用のプリント（資料2）と参考資料（資料3）、関連資料を配付する。

中世に誕生したさまざまな職業に就いたつもりになって絵日記をかかせる。

絵日記用のプリントには、評価観点の枠を用意し、配付時にどの観点を評価していくか明確にしておく必要がある。資料2は絵日記の基本的なプリントである。

資料2

どのような職種があるのかを示すため、資料3のような「七十一番職人歌合」にあげられる職人絵を示し、この絵を参考にしても、切り貼りしてもよいことを伝える（142職種あるので、全員に2職種いきわたるように資料を用意し、配付することも可能である）。

資料3

関連資料は教科書や資料集に掲載されている資料をまとめて配付する。資料の量は、それぞれ生徒の状況に合わせて増減させてもよい。

今まで学習した内容の資料を複数提示することで、ただ絵日記をかくだけではなくそのなかから自分の表現に合わせて資料を選択し、決められた条件のもとで思考力や表現力を培うことができる。

③ 「民衆は武家政治のなかでどのように生きたのか」という最初のテーマがわかるようにまとめさせる。

何のねらいがあって絵日記をかくのか明確にしておく必要があり、そのねらいに則して絵日記をまとめるように促す。

④ 条件と作業時間（40分）を示し、作業を始めさせる。

無条件の表現ではなく、一定の制限を設ける。その条件は資料2の絵日記用プリントにも提示するが、

- 条件① 室町時代の民衆のようすがわかるように衣装や道具などを工夫してかく。
- 条件② 学習したことを活用し、室町時代の特徴がわかるように絵や日記を工夫する。
- 条件③ 職業を明確にし、どの資料を参考にしたかわかるようにする。

の3つである。第一条件は「関心・意欲・態度」の観点、第二条件は「思考・判断・表現」の観点、第三条件は「資料活用の技能」の観点から設けたものである。

かき方では

- ① 1日目と2日目では、別の職種をかくこと。
- ② 1日目と2日目は別の日、別の場所、季節が違ってよい。
- ③ 1日分に自分が決めた職種と別の職種の人物をかいてもよい。

という点を付け加える。こうすることによって、時代のとらえ方を多角的に考えさせることが可能になる。とくに①と②の点は重要で、1日目に室町時代初期のようすを、2日目に応仁の乱以降をかくこともできるため、明確にしておく。

また、どうしても絵がかけない、日記の内容がまとまらない、時代のイメージができないという生徒のための手だてとして、絵日記用のプリントに教科書p.58～59に掲載されている「タイムトラベル⑤」に描かれているようすから室町時代をかいてもよいとアドバイスを載せる。

(3) 事後指導

言語活動をより充実させるため、次の時間に班内で絵日記を輪読し感想を書いたり、よい絵日記をクラス発表させたりすることも可能である。

4 評価方法

絵日記の評価については、条件を満たしているかが基準になる。しかも、3つの条件を総合的に評価するのではなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」の3観点それぞれを評価していく。

(1) 関心・意欲・態度の評価基準

おもに絵から評価していく。

B基準	資料3にあるような衣装や道具が、人物描写と一緒にかかれている。
A基準	衣装や道具をかきつつ、資料3にかかれていない売買のようすや定期市・都市のようすがかかれている。
C基準	人物や衣装・道具のみかかれ、民衆のようすがうかがえない。

(2) 思考・判断・表現の評価基準

おもに日記の内容から評価していく。

B基準	取り上げた職業と、室町時代のできごと(一揆・応仁の乱・祇園祭など)について関連性をもってかかれている。
A基準	取り上げた職業とできごとについて関連性をもって触れられていると同時に、流通や経済の発展・武士との関係についてまとめられている。
C基準	取り上げた職業についてのみかかれている。

(3) 資料活用の技能の評価基準

B基準	取り上げた職業に合う資料を1~2つ適切に選んでいる。
A基準	取り上げた職業に合う資料を2つ以上、関連性をもって適切に選んでいる。
C基準	参考資料から資料を選ばずかいている。

<評価の留意点>

関心・意欲・態度の観点では、都市や定期市といった場所や、作業をしている場面がわかるようにかかれていることに留意する必要がある。また思考・判断・表現では、関連性という点に関して、できごとの前後関係や時代の流れに齟齬や間違いがないかに留意することが重要である。

以上のような留意点をもとに評価していくが、評価基準の根底には単元を貫くテーマがあり、それに則しながらB基準を設定する必要がある。作

業の前に生徒に単元を貫くテーマを説明することは、B基準を示す意味ももっている。

5 おわりに

「言語活動の充実」が重視されるようになるなかで、グループワークや討論学習といった話し合い活動を言語活動ととらえ、どんなテーマでそうした活動を行うかに焦点が当てられている。筆者はグループワークを否定するつもりはないが、『学習指導要領』に掲げられている「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」を言語活動の基礎と考えた場合、すでに今まで実践されてきた方法にも言語活動があると考えている。

また、現在の言語活動は発言することを前提にしているように感じるが、文章や絵画などで表現するのも言語活動の一環であると考え。文章や絵画で表現するには、論理的な思考力や表現力を必要とし記録として残る。瞬時の判断で発言することも重要だが、熟考して考えをまとめることも重要な言語活動といえるだろう。

本稿では「絵日記」という課題を通して、「言語活動の充実」につながる授業案を提案した。基礎にしたのは、学習した内容を活用して自分なりに「室町時代の民衆」をどうとらえるかという点である。

「絵日記」は中世に限らず、単元のおわりごとにまとめとして作業させることが可能であり、何度か行うなかで生徒も要領を得てくる。学習内容をふまえ、どのポイントが重要であるか判断が速くなり作業効率もアップする。「思考力・判断力・表現力」の定着と同時に、時代を大観する機会にもなるのではないだろうか。そうした実践を積み上げることで、生徒の歴史に対する多角的・多面的な見方や考え方を育成していきたい。

参考文献

- 『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』平成23年 文部科学省
- 「七十一番職人歌合 新撰狂歌集 古今夷曲集」『新日本古典文学大系61』平成5年 岩波書店